

モーリタニア月例報告
(2025年1月)

2025年2月
在モーリタニア日本国大使館

【外政】

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 1月13日 | ブルハン・スーダン暫定主権評議会議長のモーリタニア訪問 |
| 1月13日—14日 | 首相率いるセネガル代表団のモーリタニア訪問 |
| 1月15日 | モーリタニア・セネガル共同声明の発出 |
| 1月15日 | ガザ停戦合意に関するモーリタニア大統領声明 |
| 1月23日 | モーリタニア・EU移民に関する共同宣言のフォローアップ会合 |
| 1月27日 | コンゴ（民）東部情勢に関するモーリタニア大統領声明 |
| 1月27日—28日 | アフリカ・エネルギー・サミットへのガズワニ大統領の参加 |
| 1月28日 | アフリカ・エネルギー・サミットにおけるガズワニ大統領の演説 |
| 1月29日 | 2025年アフリカ開発銀行総裁選挙（モーリタニアの立候補） |

【経済】

- | | |
|-------|--|
| 1月23日 | モーリタニア・モロッコ電力及び再生可能エネルギー分野でのパートナーシップ強化のための覚書 |
| 1月24日 | GTAガス田生産及び輸出開始予定の発表 |

【経済協力】

- | | |
|-------|--|
| 1月28日 | 令和5年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「アエレンバー市アエレンバー村給水塔整備計画」及び同「アエレンバー市アエレゴレール小学校整備計画」の引渡式 |
|-------|--|

【外政】

●ブルハン・スーダン暫定主権評議会議長のモーリタニア訪問

（１月１３日付当地政府系メディアAMI）

１ １３日夜、ガズワニ大統領・AU議長は、ヌアクショットの大統領宮にて、大規模な代表団を率いて当国を訪問中のブルハン・スーダン暫定主権評議会議長と会談した。

２ 二国間関係及びスーダンの時事問題に焦点を当てた会談の終わりに、両者は以下の最終コミュニケを発表した。

（１）２０２５年１月１３日及び１４日（注：報道は１３日付）、ブルハン・スーダン暫定主権評議会議長は、大規模なスーダン代表団を率いてモーリタニアを訪問した。同議長は、ガズワニ大統領・AU議長に接受された。

（２）今回の訪問は、モーリタニアとスーダンとの間で確立され、また、兄弟である両国民間に共有された歴史的、文化的な絆によって強化された友愛関係の一環である。

（３）ガズワニ大統領は、ブルハン・スーダン暫定主権評議会議長と、二国間関係及びスーダン情勢の進展について会談した。

（４）ガズワニ大統領は、安全保障、政治、社会及び人道的な側面を持つスーダン危機の進展と、スーダンの統一と領土一体性に関する追求の危険性について、スーダンの賓客に深い懸念を表明した。ガズワニ大統領はまた、スーダンの人々が苦しんでいる人道的状況に深い懸念を表明し、すべての被災地への妨げのないアクセスを確保する緊急かつ包括的な対応と、スーダン経済の再建及び再活性化のための実際的な計画策定の必要性を強調した。

（５）ガズワニ大統領はスーダン暫定主権評議会議長に対し、モーリタニアが現在の危機を克服するためにスーダンの支援に貢献し、スーダンの兄弟がこの点で必要と考えることは何でも行う用意があることを確約した。

●首相率いるセネガル代表団のモーリタニア訪問

（１月１３日、１４日付当地政府系メディアAMI他）

１ ジャイ首相・ソンコ・セネガル首相会談

（１）１３日、ジャイ首相は、首相府において、ソンコ・セネガル首相と両国間の協力関係を強化のための会談を行った。

（２）ジャイ首相は、ソンコ首相及びセネガル代表団を心から歓迎し、今回の訪問は両国の歴史的関係を象徴するものであると述べた。また、両国が共同で進めてきた成果として、セネガル川開発機構（OMVS）や建設中のロッソ橋、さらにはモーリタニアとセネガルが共同で開発しているGTAガス田プロ

ジェクトに言及した。また、ジャイ首相は、セネガルとの協力のさらなる発展に向け、両国が抱える共通の課題に取り組む重要性を強調した。

(3) ソンコ首相は、モーリタニア政府の温かい歓迎に感謝を述べ、両国は、単なる隣国というだけでなく、共通の歴史と文化を共有している、我々は、両国間の友情とパートナーシップをさらに深化させ、地域の平和及び安定を確保するために協力すると述べた。また、両国が昨年11月に開催した第13回モーリタニア・セネガル合同委員会や、昨年9月にダカールで開催された両国の経済フォーラムについても触れ、これらが両国間の協力を拡大する重要なステップであることを強調した。

(4) 会談では、エネルギー、交通、漁業、治安など、様々な分野での協力について議論が交わされた。また、両国が直面する課題を共有し、それらを克服するための連携強化が確認された。

(5) さらに、ソンコ首相は、現在進捗率30%のロッソ橋建設プロジェクトの重要性を強調し、予定通り2026年7月31日までに完成させる意向が示された。全長1.5キロのロッソ橋はセネガル川に架かり、モーリタニア南部とセネガル北部を結ぶ。総工費は8800万ユーロ、577億CFAフランである。

2. 内務

(1) 13日、モハメド・レミン内務・地方分権促進・地方開発大臣は、ジャン・バティスト・セネガル内務・治安担当大臣と共にヌアクショットの国立人口登録・安全文書庁(ANRP TS)を視察し、各部門を巡回し業務内容を確認した。また、同施設で会談が開催された。

(2) 同会談で、両大臣は「不法移民分野における両国間の協定作成の必要性」について話し合った。モハメド・レミン大臣は、モーリタニア及びセネガル両国が、EU及びスペインと結ぶ不法移民分野の協定に照らして、両国間で必要な協定を作成するための枠組みを説明した。モーリタニアとセネガルは、スペイン沿岸を経由して大陸へ向かう不法移民がかつてないほど増加していることを受け、EU、特にスペインとの間で不法移民対策に関する多くの協定を締結した。

(3) 同大臣はまた、隣国間の移動にビザを必要としない両国国民の移動と居住の円滑化に関する両国間で締結された協定を見直すことの重要性を強調した。昨年8月、セネガル当局はモーリタニアとECOWAS諸国からの車のセネガル滞在を最長90日と定めた。

(4) 会談後の記者ブリーフィングの最後に、モハメド・レミン大臣は両国及び両国民を結びつける歴史的、地理的及び文化的結びつきの強さと深さを強調

し、ジャン・バティスト大臣はモーリタニア側から提起された重要事項すべてに賛同すると述べた。

3. エネルギー

13日、カレド・エネルギー・石油大臣と、ビラマ・スリ・ジョブ・セネガル・エネルギー・石油・鉱業大臣は、ヌアクショットで、ガス部門、特にG T Aにおけるローカル・コンテンツに関する規則及びメカニズムの実施に関する協定に署名した。本協定は、石油・ガス産業に関連する現地専門知識、商品、サービスの分野において、現地での付加価値を高め、現地での雇用機会を創出すること、熟練した競争力のある現地労働力を育成すること、訓練、技術・知識の移転及び研究開発を通じて、石油・ガス産業における国家能力を開発することを目的としている。

4. デジタル

(1) エトゥファハD X・行政近代化大臣は、シェイク・アフマド・モーリタニア・経済団体連盟会長とビディ・アニエ・セネガル・経済団体連盟会長と共に、モーリタニア全国経済団体連盟のサービス連盟と、セネガル全国経済団体連盟のデジタル専門家協会との間で、覚書の締結式を主宰した。

(2) 覚書には、アルワリド・モーリタニア・サービス連盟会長及びングム・セネガル・デジタル専門家協会総局長が署名した。

(3) 締結式では、両組織の責任者が、モーリタニア・セネガルの民間セクター間のパートナーシップがもたらす経済的・社会的利点について称賛し、この協力が両国間の多岐にわたる分野での協力発展に及ぼす重要性について強調した。特に、経済成長と発展の重要な柱となったデジタルインフラの整備分野での進展が強調された。

(4) また、両代表は両国がこれまで築いてきたパートナーシップの進展と関係強化の成果、そしてこれがモーリタニアとセネガルにおける最大の発展プロジェクトの一つとなる重要性について言及された。

5. 水産・海洋インフラ

(1) 13日、アフメド・ルーリー漁業・海洋インフラ・港湾インフラ大臣は、現在セネガル首相に随行する閣僚団の一員としてモーリタニアを訪問中のファトゥ・ディウフ・セネガル漁業・海事・港湾インフラ担当大臣と共に、ヌアクショットにある水産物衛生検査公社（O N I S P A）の化学・生物学研究所を視察した。

(2) 視察中、両大臣を含む一行は、これらの研究所が担う役割について詳細な説明を受けた。具体的には、水産物の輸出や国内消費に先立つ品質と衛生管理を目的とした検査業務や、試験及び監査分野における同研究所の高い能力について説明が行われた。

(3) なお、ONISPAの研究所は、これまでに複数回ISO認証を取得しており、モーリタニアは魚の衛生及び品質管理の分野で南アフリカに次いでアフリカで2位の地位を確立している。モーリタニアの海産物輸出は、EU、日本、ブラジルをはじめとする世界各国で認証を受けている。

(4) 同日、両大臣は会談を行い、2001年から続くモーリタニアとセネガルの漁業協定についての議論が行われた。この協定は適用プロトコルを更新しながら進められており、セネガルの漁師がモーリタニアの海域で漁業を行うことを許可している。また、漁業及び海事インフラ分野での両国の協力についても話し合われた。

6. 外交

(1) 13日、メルズーグ外務・アフリカ協力・在外モーリタニア人担当大臣は、ファル・セネガル・アフリカ統合・外務大臣と会談を行った。

(2) 会談では、両国間の協力関係を強化・発展させるための方法について議論が行われ、両国民の利益に資する形での協力の推進が話し合われた。また、共通の関心事に関する様々な問題も議論された。

7. 道路・交通

(1) 13日、エル・ヴェイリック・モーリタニア設備・運輸大臣は、ヌアクショットでヤンコバ・ディエム・セネガル・インフラ・陸上交通・航空交通大臣と会談を行った。

(2) 会談では、両国間の協力関係を強化・発展させるための方法について議論が行われ、両国民の利益に資する形での協力の推進が話し合われた。また、共通の関心事に関する様々な問題も検討された。

8. ガズワニ大統領表敬

(1) 14日、ガズワニ大統領・AU議長は、ヌアクショットの大統領官邸にて、ソンコ・セネガル首相率いる一行を迎えた。

(2) ガズワニ大統領は、モーリタニアを友好・実務訪問中のセネガルの賓客と非公開で会談した。会談では、兄弟国である両国の友好関係の確立、二国間関係の強化、共同協力の多様化と拡大の必要性について触れられた。

(3) 会談後、ソンコ首相は以下の声明を発表した：

自分と代表団は、ガズワニ大統領に表敬する機会をいただいた。この面会では、まず両国の代表団が意見を交換し、その後、大統領から特別にテタテの機会を賜った。両国間の協力に関するすべての重要なテーマ、さらに地域全体及びアフリカ大陸全体の課題についてじっくりと話合った。

私個人として、またファイ・セネガル大統領、代表団及びセネガル国民を代表して、ガズワニ大統領のご厚意とおもてなしに心より感謝申し上げる。

ガズワニ大統領とは、エネルギー・炭化水素、OMVS、両国民の移動及び定住、ロッソ橋を含む輸送、そして漁業といった議題について深く話合った。これらの議論を通じて、モーリタニア側との目標が完全に一致していることを確認でき、両国民にとって、より繁栄し、友好を深める未来が期待できると確信している。

ファイ・セネガル大統領と自分が率いる政府は、両国間の関係をこれまでにないレベルに引き上げるために全力を尽くす所存である。我々は、地理的、歴史的、社会的、文化的な結びつきによって、この使命を果たす義務があると考えている。

9. 官民連携に関する円卓会議

(1) 14日、ジャイ首相とソンコ首相は、ヌアクショットにおいて「持続可能な経済統合のための戦略的パートナーシップ強化」をテーマにした官民連携に関する円卓会議を共同で開催した。

(2) 本会議は、モーリタニア投資促進庁（APIM）が主催し、両国におけるエネルギー、鉱業、漁業、畜産開発、農業といった重要分野での投資機会を探り、協力関係を強化することを目的としている。

(3) 会議の冒頭では、農業畜産、鉱業、エネルギー、交通などモーリタニアとセネガルの幅広い分野における投資機会と有望な資源を紹介する2本の映像が上映された。

(4) ジャイ首相は演説の中で、ソンコ首相とともに両国間の経済協力強化に向けたあらゆる可能性について議論したことを明かした。特に民間セクターの発展が議論の中心となり、新たな経済協力の基盤を築く必要性があるという共通認識に達したと述べた。

(5) また、同首相は両国が持つ再生可能エネルギー、天然ガス、太陽光発電、風力発電、石油、水資源、農業、畜産、漁業、産業といった豊富な資源を強調。さらに、輸入代替産業や多様な競争力のある産業、特別経済区や自由貿易地域、貿易回廊（特にヌアディブ・ヌアクショット・ダカール回廊）への投資の可能性にも言及した。

(6) 両政府は、規制の調和、手続きの簡素化、国境を越えたインフラ整備、

成長を支える基盤整備、資金調達へのアクセス確保、そしてローカル・コンテンツ法の厳格な施行などを通じて、民間セクターの発展と繁栄を支援することを約束した。また、両国に共通するローカル・コンテンツ管理の枠組み作りも提案した。

（７）目標達成に向けて、ジャイ首相は両国の民間セクターがローカル・コンテンツ・プロジェクト、若者の参画促進やスタートアップ支援の仕組みを通じて協力を深めるよう呼びかけた。

（８）セネガルの民間セクターがモーリタニアの民間セクターから歓迎されると述べ、モーリタニア政府が障害を速やかに取り除くために必要な措置を講じると約束した。両国間の戦略的パートナーシップを地域及び大陸の統合を推進する原動力とし、繁栄への道とするために両国が共同で取り組むことが重要であると強調した。

（９）ソンコ首相は、協力分野を石油やガス産業だけに限定するのではなく、農業、畜産、金融、教育などへ広げるべきだと強調した。エネルギーは産業化の鍵であると述べ、十分かつ手頃な価格のエネルギーが農業分野の変革及び発展に不可欠であると指摘した。

（１０）再生可能エネルギーの進展が遅い中、２０５０年までに１万メガワット以上のエネルギーが必要とされている一方、現在の生産量は１７００メガワットにとどまっており、大きなギャップが存在することを明らかにした。

（１１）また、セネガルはアフリカの民間資本に依存しており、モーリタニアの投資家を歓迎すると述べた。両国の大統領が築いた強固な関係を称賛し、ビジネス環境を柔軟にし、両国で同じ条件で事業ができるようにする必要があると述べた。さらに、我々は共に強くアフリカの玄関口としての役割を果たしていると強調した。

（１２）モーリタニア雇用者連合会長は、両国が共同で進めるＧＴＡガス田プロジェクトや建設中のロッソ橋など協力の象徴となるプロジェクトについて述べた。一方、セネガル雇用者連合会長は、強力な経済基盤の構築を目指すために協力を強化する重要性を強調した。

（１３）ラム・ＡＰＩＭ長官は、この会議が２０２４年１０月に開催されたモーリタニア・セネガルフォーラムの継続であり、具体的なイニシアティブの出発点となると述べた。バティリ・セネガル投資促進庁局長も、地元生産を拡大して輸入依存を減らす必要性を強調した。

１０． ヌアディブのモーリタニア鉄鋼公社（ＳＮＩＭ）及び水産物加工場視察

（１）１４日、ジャイ首相とソンコ首相は、ヌアディブのＳＮＩＭと海産物製

品促進工場（M S E A F O O D 3）工場の施設を視察した。

（２）視察の第一の訪問先はS N I Mで、両首相は会社の様々な施設や部門を巡り、まず鉄道車両の保守・修理作業場を訪れた。ここでは、同社のアル・ハディ・ウルド・アール・イブラヒム代理取締役が技術的な説明を行った。

（３）続いて、同社が所有する鉱石輸送港を訪問し、鉄鉱石の輸出プロセスについて説明を受けた。この港の処理能力は１時間あたり１万～１万３千トンで、積載量が２５万トンに達する船舶を受け入れることが可能。

（４）視察の最後に、両代表団は同社の創設の歴史や国民経済に与える貢献についての特別なプレゼンテーションを受けた。今年、同社の鉄鉱石輸出量は１，４００万トンを超えた。また、両首相は記念品の交換を行い、同社のゴールデンプック（記念帳）に署名した。

（５）視察の第二の訪問先は経済首都にある海産物製品促進工場（3 M S E A F O O D）で、両首相は工場内の加工及び生産ユニットや、イワシの処理・缶詰工程を見学した。

（６）視察中、工場の責任者が説明を行い、この工場は国内の技術者によって設計・建設され、アッバスグループの資金提供を受けて設立されたことが紹介された。工場は高品質なイワシの缶詰を国内市場に提供することを目的としており、国内の水産資源の付加価値を高める重要な役割を果たしている。

（７）この工場は２００～３００の雇用を提供しており、モーリタニアの海域で捕獲された高品質な魚を用いた缶詰の生産・販売を主な目標としている。また、冷凍表層魚、冷凍タコ、入手可能な時期には深海魚の加工も行っている。

●モーリタニア・セネガル共同声明の発出

（１月１５日付、当地政府系メディアA M I）

１．（１）ジャイ・モーリタニア・首相の招待を受け、ソンコ・セネガル首相は、２０２５年１月１２日から１４日にかけてモーリタニアを友好・実務訪問で訪れた。この際、セネガル側の代表団は、アフリカ統合・外務大臣、内務・公共安全大臣、石油・エネルギー大臣、漁業・港湾インフラ大臣、インフラ・陸海空輸送大臣で構成されており、その他各省庁からの高官も参加した。

（２）今次訪問は、両国間の高官レベルでの交流を継続させるものであり、ガズワニ大統領のセネガル訪問、ファイ・セネガル大統領のモーリタニア訪問に続くものである。また、歴史的、地理的、文化的、政治的に深い絆を共有する両国間の特別な関係をさらに深める枠組みの中で実施された。

２．大統領表敬

ソンコ首相は、ガズワニ大統領との会談に招かれた。この場でソンコ首相

は、ファイ・セネガル大統領からの温かい挨拶を伝えた。ガズワニ大統領はこれに感謝を示し、両国民の成功と繁栄を願う意向を表明した。

3. 協力の成果と今後の方針

(1) 両首相は会談を行い、その中で共通の関心事である多くの戦略的問題を取り上げ、その後会談は両代表団を交えた拡大会合に移行した。両首相は、経済、技術、政治に関する専門家による最近のハイレベル会合や、2015年以来開催されていなかった合同協力委員会会議が2024年11月にヌアクショットで開催された(第13回)ことに言及し、協力の進展を称賛した。

(2) また、両国は民主主義、共同発展、地域統合といった共通の価値観において完全に一致していることを強調し、サヘル地域における安定、安全、発展のために共同で取り組む意志を再確認した。また、双方は、平和の課題に対処し、テロと闘い、気候変動に対する強靱性を促進するために、地域の枠組みの中で協力を強化することの重要性を強調した。

4. 共同の課題に関する合意

(1) 両首相は、安全保障、エネルギー、交通、漁業、移民、畜産など、幅広い分野における協力の進展を確認し、さらなる強化を目指すことで一致した。

(2) 共同の課題を認識し、双方は1972年1月14日にダカールで署名された協力のための合同大委員会の設置に関する合意に基づき、両首相の共同議長の下、合同大委員会の年次会合を開催することを決定した。同委員会事務局は両国の大使が交互に責任者となり、両国の首脳による会議の結論の採択に向け準備し、提出することを任務とする。

(3) また協力及び開発のためのモーリタニア・セネガル事務局の設立について検討を続ける。

(4) 特定分野での協力を促進し、開発に奉仕する共同イニシアティブを奨励するため、分野別省庁間会合を強化することの重要性を強調した。

5. 安全保障

(1) 安全保障に関して、双方は、人の自由な移動を可能にし、両国国民の居住の条件を容易にすることを目的とした協定案について議論した。双方は、同協定案を、人の自由な移動と両国への入国、居住、定住の条件に関する側面に限定することで合意した。モーリタニア側はまた、この問題に関する大統領閣下の厳重な指示をできるだけ早く実行に移し、特にセネガル国民がレジデンス・カードを取得するための新たな条件を盛り込んだ協定案を、2025年第1四半期末までにセネガル側に提出することを改めて約束した。

(2) さらに双方は、両国の行政当局及び国境防衛・治安サービス間の定期的な会合を強化・活性化することに合意した。

(3) この文脈で、両者は、特に不定期移民と国境を越えた組織犯罪との闘いにおいて、両国に影響を与える共通の安全保障上の課題に対処するための作戦上の枠組みを確立することに合意した。この点に関して、モーリタニア側はできるだけ早く、移住に関する協定案をセネガル側に提出する予定である。

(4) 麻薬及び類似物質の密輸、武器の拡散、国境を越えた犯罪ネットワーク、マネーロンダリングなど、国境を越えた安全保障上の課題の大きさに鑑み、また、テロリズムと組織犯罪の密接な関連性を認識した上で、双方は、両国の国防軍と警察間の効果的な協力を称賛し、両国の共通の安全保障を指導・規制する包括的かつ統合的な戦略的枠組みの確立に向けた努力を結集することに合意した。

6. エネルギー分野

(1) エネルギー分野では、双方は両国のチーム間の模範的かつ戦略的な協調を称賛した。この協調は、あらゆる困難を克服し、エネルギー分野プロジェクトの成功に貢献した。また、G T Aガス田共同プロジェクトの成功も称賛された。この成功は、2024年12月の最初の油井の開通の共同発表に結実した。

(2) これらの成果を踏まえ、双方は、共通の利益に基づく恒久的な協議、コミットメント、補完性、パートナーシップの精神に基づき、この協調を継続・強化するという共通の意志を表明した。

(3) この文脈において、双方は、「Gas-to-Power」戦略の実施の一環として国内市場に天然ガスを供給し、バリューチェーンを構築し、ローカル・コンテンツを促進することにより、共通の利益を保護し、G T Aプロジェクトの第一段階及び将来段階から生じる社会経済的利益を最大化するための努力を強化することに合意した。

(4) この関連で、双方は2025年1月13日、G T Aプロジェクトに適用されるローカル・コンテンツのルールとメカニズムの実施を目的とした協定議定書への署名を歓迎するとともに、石油・ガス産業のバリューチェーン開発への両国の民間部門の参加を強化するための一連の措置を歓迎した。

7. 交通分野

(1) ロッソ橋建設プロジェクトが両国の経済交流と移動性向上における戦略的重要性を持つことを再確認した。また、両国間の貨物輸送に関する協定を強化し、税制回避への対策を講じることで合意した。2025年3月には、ロッ

ソで関係者が集まり、貨物の荷揚げ廃止に向けた実施計画を策定する予定である。

8. 漁業・畜産業

(1) 双方は、両国間の漁業ポテンシャルを強化・発展させ、魚介類がより利用しやすく、国民にとって身近なものとなるよう、漁業資源の利用条件を見直した。両首相は、両国の漁業担当大臣に対し、研究、漁業開発、漁業管理、衛生検査、製品価値向上、養殖、大陸漁業、海事分野における二国間協力を強化するために必要なあらゆる措置をとるよう指示した。

(2) 畜産分野においては、調整と紛争予防を強化し、国境を越えた家畜伝染病と闘うための合同委員会の会合を再開することの重要性を強調し、犠牲祭のような重要な時期の市場への供給における協力は、発展させるべき協力の成功モデルであると考えた。

9. 民間部門との連携

(1) モーリタニア投資促進庁（APIM）とセネガル投資促進庁（APIX）主催の官民連携に関する円卓会議において、両首相は議長を務め、モーリタニア・セネガル間の戦略的協力推進における民間部門の中心的役割が強調された。このイベントは、二国間投資を奨励し、野心的な共同プロジェクトを開発し、持続可能な開発と共通の進歩に貢献するモデル的パートナーシップを促進するという双方のコミットメントを反映している。

(2) APIMとAPIXは、モーリタニアとセネガルの民間セクターと協力し、2025年10月にヌアクショットで第2回モーリタニア・セネガル経済フォーラムを開催することに合意した。

(3) 両機関は、官民パートナーシップの枠組みの中で、また両国の民間部門と連携して、地域統合プロジェクトを特定するための協力関係を強化することにコミットしている。

(4) 双方は、2024年10月にモーリタニア・セネガルビジネス評議会が設立されたことを歓迎した。

10. ヌアディブでのモーリタニア鉄鋼公社（SNIM）、水産物加工場視察

(1) 今回の訪問中、両首相はヌアディブを訪問し、SNIMの施設、鉱港、漁業会社など、いくつかの戦略的施設を視察し、鉄鉱石の加工・輸出技術、モーリタニアの産業ポテンシャルを反映した港湾物流業務、水産加工部門の発展度合いなどについて詳細な説明を受けた。

(2) セネガル首相は、モーリタニアがこれらのインフラと産業ポテンシャル

の開発において目覚ましい進歩を遂げていることに賞賛の意を表し、地域協力の促進と持続可能な経済成長の促進におけるこのようなモデルの重要性を強調した。

１１．訪問の終わりに、ソンコ首相は、兄弟であり友人でもあるジャイ首相、そしてモーリタニア政府及び国民に対し、同首相と一行が滞在中に受けた温かい歓迎と歓待に対し、心からの謝意と感謝の意を表明した。

１２．ソンコ首相は兄弟であり友人でもあるジャイ首相に、セネガルへの実務訪問の招待状を送り、これは受諾された。

２０２５年１月１４日

ヌアクショット

アラビア語・フランス語の２種類で発行

モーリタニア・外務・アフリカ協力・在外モーリタニア人大臣

モハメド・サレム・ウルド・メルズーグ

セネガル共和国・アフリカ統合・外務大臣

ヤシーヌ・フォール

●ガザ停戦合意に関するモーリタニア大統領声明

（１月１５日付、ガズワニ大統領×公式アカウント）

（仮訳）自分は、カタル、エジプト及び米国の尽力により、ガザにおける停戦合意が達成されたという知らせを大変喜ばしく受け取った。兄弟であるパレスチナ国民の苦しみを終わらせるためには、国際社会が強い意志を持って救援や復興の努力を支援し、公正な解決への道を開くことが不可欠である。その解決は、東エルサレムを首都とする独立したパレスチナ国家の樹立を保証するものでなければならない。

●モーリタニア・ＥＵ移民に関する共同宣言のフォローアップ会合

（１月２３日付、アラブ系独立メディア「Al-Quds Al-Araby」）

１．１月２３日、昨年３月７日にヌアクショットで署名されたモーリタニア・ＥＵ間の移民に関する共同宣言の実施フォローアップ会合が終了し、同宣言を活性化し、その目的達成を確実にするための一連の措置を承認した。

２．会議には、ハサン（Mr. Abderrahmane Ould El Hassen）モーリタニア・内務次官、エルリッチ（Ms. Corinna ULLRICH）ＥＵ外務局長がそれぞれ代表

として出席し、社会的結束強化のための若者の社会的経済的機会、難民保護、合法的な移住及び移動、不法移民、密入国、人身売買、帰還民、国境管理・監視を含むいくつかの議題について議論が行われた。双方の代表者たちは、前向きで建設的な議論が行われたことに満足の意を表明するとともに、課題の克服と障害への対応が必要であることを再確認した。

モーリタニア側からは、外務、国防、経済、漁業、人権委員会の代表者に加え、国家人身売買対策機関、地方行政局、国家憲兵隊、国家警察、消防、海軍、沿岸警備隊など関連機関の代表者が参加した。一方、EU側からはEU外務局長、西、独、伊、仏大使及びEUの専門家が参加した。

3. 昨年3月に締結された同共同宣言は、双方の長期に亘る交渉を経て合意に至ったもので、一部のモーリタニア政治勢力からの反対にもかかわらず採択された。

4. 同宣言は、双方が移民及び強制送還に関する課題について、定期的な対話を実施するパートナーシップを築くことを明言した。このパートナーシップは、相互尊重の原則に基づき、共通の目標や行動指針を策定する枠組を提供し、さらに合法移民や移動の適切な管理を促進することを目指すものであり、若者の雇用機会の創出やEU国境管理機関「フロンテックス」との協力による国境管理の改善、不法移民の予防及び管理、人身売買ネットワークの取り締まり、難民の受け入れと国際的保護、さらに庇護希望者への対応など具体的な対応策を含む。またモーリタニアとEUの制度に基づき人権を尊重しながら、滞在資格のない人々の帰国プロセスの円滑化も含まれる。

5. 同宣言の実施に関して、双方は、このパートナーシップの各要素が統一的な枠組みを形成しており、バランスの取れた包括的なアプローチで実行されるべきであるとした。

●コンゴ（民）東部情勢に関するモーリタニア大統領声明

（1月27日付、ガズワニ大統領X公式アカウント）

自分は、コンゴ民主共和国東部で進展している状況を深く憂慮している。国際人道法の尊重、敵対行為の即時停止、交渉の再開を強く求める。

●アフリカ・エネルギー・サミットへのガズワニ大統領の参加

（1月27日、28日付、当地政府系メディアAMI）

1. （1）ガズワニ大統領・AU議長が、27日、アフリカ・エネルギー・サミ

ットに出席するため、タンザニアのダルエスサラームに到着した。

(2) サミットには、ガズワニ大統領のほか、各国首脳、地域銀行、国際銀行、国際パートナー、民間機関、エネルギー専門家、市民社会組織、大学教員らが参加し、2030年までにアフリカの3億人に電力へのアクセスを提供することを目的とした「ミッション300」プロジェクトの実施を加速させるため、安全で信頼できるエネルギーへのアクセスと包括的かつ持続可能なエネルギー転換を達成するための解決策について議論する。

(3) ガズワニ大統領は、ダルエスサラーム国際空港にて、ドウガン・タンザニア地方行政・地方自治大臣に出迎えられた。

(4) ガズワニ大統領には、シュルーカ大統領府官房長大臣、ブー経済・財務大臣、カレド・エネルギー・石油大臣、ヴァル駐タンザニア・モーリタニア大使及びアフメド国家儀典局長が同行した。

2. 二国間会談（ボツワナ、ブルンジ、ギニアビサウ、ガボン）

(1) ガズワニ大統領・AU議長は、28日、タンザニアのダルエスサラームで開催されたアフリカ・エネルギー・サミットのマージンで、サミットに参加しているアフリカの首脳と会談した。

(2) ガズワニ大統領は、ボコ・ボツワナ大統領、ンダイシミエ・ブルンジ大統領、エンバロ・ギニアビサウ大統領及びンゲマ・ガボン大統領と会談した。

(3) 会談では、モーリタニアとこれらの兄弟国の首脳との協力を強化し、地域的及び国際的な問題に加えて、その協力をさらに発展させ強化する方法に焦点が当てられた。

(4) アフリカの首脳は、ガズワニ大統領がAU議長国としてアフリカの経済発展と世界との関係を強化するために行った努力を歓迎した。

3. アフリカのエネルギーに関する「ミッション300」サミット閣僚セッション

(1) モーリタニアは、27日、タンザニアのダルエスサラームで開催されたアフリカのエネルギーに関する「ミッション300」サミットの閣僚セッションの一環として、エネルギー・プロジェクトに関するプログラムとビジョンを発表し、新しい発電所、送電・配電線、農村電化を含むプロジェクトの資金調達に必要な資源を動員するための計画を概説した。

(2) ブー経済・財務大臣及びカレド・エネルギー・石油大臣は、バンガ世銀総裁、アデシナAfDBグループ総裁、電力プロジェクトの資金調達に積極的に取り組む金融機関及び国際的な民間部門の代表者の出席のもと、本計画について詳細なプレゼンを行った。

(3) このイベントを通して、モーリタニアは24億ドルを動員し、電力サービスへのアクセスを50%から100%に増やすことを目指す。本資金調達計画によると、12億ドルは民間部門の寄付により動員される。

(4) ミッション300サミットは、ガズワニ大統領、大陸の複数の国家元首、国際及び地域の金融機関の代表が出席するなか、28日に大統領レベルで開始する。

(5) ミッション300サミットは、2030年までに3億人のアフリカ人に電力へのアクセスを提供することを目指す。

4. モーリタニア・AfDB資金協定署名

(1) ガズワニ大統領・AU議長は、タンザニアのダルエスサラームで開催されたアフリカ・エネルギー・サミットのマージンで、アデシナAfDBグループ総裁の出席のもと、モーリタニアとAfDBの間の資金協定の署名を見届けた。

(2) この資金は2,400万ドルにのぼり、統合的な開発と動物セクターの開発のためのAWKARプロジェクトに当てられる。

(3) この協定は、ブー経済・財務大臣とアジジAfDB総裁によって署名された。

(4) このプロジェクトは、国の食料安全保障を確保するため牧畜資源の価値を高めることにより、基本的な牧畜、社会及び教育インフラを開発することを目的としている。

(5) このプロジェクトは、特に20,000ヘクタールの面積をもつ家畜部門及び各5,000ヘクタールの2つの集団農場の建設、そして7つの牧畜場、2つの家畜市場及びその他の施設の建設等の基本的な生産インフラの創設及び開発に焦点を当てたいくつかの要素がある。

(6) また、このプロジェクトはバリューチェーン開発、女性と若者の起業促進、牧畜生産性の向上、気候に敏感な農牧生産の技術と革新を普及するための2つのフィールドプロジェクトの設立、植生の回復と約10,000ヘクタールの劣化した牧草地の修復、草木の補助、飼料用低木の栽培、砂丘の安定化、僻地での火事との闘いを通じて自然牧草地の質と生産性を向上させることも目的としている。

(7) さらに、このプロジェクトは、女性及び若者のエンパワーメントを強化し、牧畜と食肉の生産、牛乳及び乳製品の商業化を支援することにより、産業化及び女性と若者の企業を促進し、動物のバリューチェーンに関する職業訓練センターを設立することによる技術教育の制度的強化を通じてプロジェクトの開発を促進する。

●アフリカ・エネルギー・サミットにおけるガズワニ大統領の演説

(1月28日付、当地政府系メディアAMI)

1. (1) 自分(ガズワニ大統領)と自分に同行した代表団に温かい歓迎を多大な注意を払ってくださったことに対し、サミア・タンザニア大統領及び彼女を通して兄弟国であるタンザニア政府と国民に心から感謝する。また、AU、タンザニア、世銀及びアフリカ開発銀行(AfDB)が主催する本アフリカ・エネルギー・サミット(ミッション300)を開催していただいたことに対しても、サミア・タンザニア大統領に感謝する。

(2) 同時に、サハラ以南アフリカの3億人の市民にクリーンで手頃な価格の持続可能な電力へのアクセスを提供するための野心的なパートナーシップに協力してくださった、開発パートナーである世銀グループ及びAfDBグループに感謝する。

2. (1) エネルギー全般、特に電力は人々の生活環境の発展と改善の柱の一つである。クリーンで十分かつ手頃な価格の電力の利用可能性は、持続可能な開発目標(SDGs)の様々な側面に良い影響を与える。

(2) 我々の大陸は、大規模なエネルギー不足を克服しなければ、産業発展、経済成長、貧困と飢餓の克服及び深刻な環境問題の解決を達成することはできない。今日、約6億人のアフリカ市民が電気を利用できず、まるで世界のこの片隅で産業革命がまだ起こっていないかのように、ろうそくの明かりと灯油ランプで生活している。

3. (1) AUは、電力へのアクセスと全体的なエネルギー安全保障がすべての開発努力の主要な柱であり、貧困の撲滅、工業化及び経済成長の促進、雇用の創出及び大陸における適正な生活を促進するための社会サービスの改善において極めて重要かつ変革的な役割を果たしていることを十分に認識している。

(2) AUは、アジェンダ2063の一環として、アフリカ大陸のエネルギー不足を緩和し、この重要な分野での地域統合を促進するための共通ビジョンを打ち出した。これに関連し、AUは単一アフリカ電力市場(AFSEM)、大陸電力システムマスタープラン(CMP)、アフリカ・インフラ開発プログラム(PIDA)等いくつかの先駆的なイニシアティブを開始し、資金の動員とパートナーシップの多様化を続けている。それは、すべてのアフリカ人がクリーン、安全、手頃な価格かつ安心なエネルギーにアクセスできるようにするためである。

4. (1) 世銀とAfDBが掲げるミッション300はサハラ以南アフリカの3億人の電力へのアクセスを確保することを目指しており、このアフリカ共通の

目標の枠組みにおいて、非常に重要である。本プロジェクトは、規模とアプローチの点において、サハラ以南アフリカにおける電化のペースを大幅に加速し、増大する需要に対応し、経済成長を促進し、より多くの雇用を創出する特別な機会である。

（２）本プロジェクトには、公的、民間、慈善団体による巨額の投資と、関係者間の綿密な連携が必要である。何よりも、魅力的で安定した投資環境を創出するために必要な改革を実施し、電力会社の財政的実行可能性を確保するために必要な措置を講じるために、アフリカ諸国の強固で揺るぎないコミットメントが必要である。何よりも、この確固たるコミットメントは、ラストマイルに特に注意を払いながら、電力生産における地域統合の開発と促進のための測定可能な目標を設定する国家レベルでのコミットメントの準備と実施及び民間投資の役割と新しいエネルギーソリューションの創出への参加の促進に変換されなければならない。

５．（１）この文脈で、自分は、アフリカの１４か国が電力の近代化と開発に対する各国のコミットメントに署名したことを歓迎し、他のすべての国に対して、各国のエネルギーに関するコミットメントの準備と署名のプロセスを加速するよう呼びかける。

（２）また、公共、民間、慈善部門のすべてのパートナーに対し、必要な資源を動員し、この重要かつ野心的なプロジェクトの実施に効果的に貢献するための努力を倍増するよう呼びかける。

（３）ＡＵがアフリカのエネルギー問題解決に全力を尽くすというコミットメントを改めて表明するとともに、皆様の活動の成功を祈る。

● ２０２５年アフリカ開発銀行総裁選挙（モーリタニアの立候補）

（１月２９日付、当地政府系メディアＡＭＩ）

１ １月２９日、ブー経済・財務大臣は、アビジャンにおいて、アフリカ開発銀行（ＡｆＤＢ）事務総局に対し、ＡｆＤＢ総裁選へのモーリタニアの立候補を正式に提出した。モーリタニアの候補者として、元経済大臣のシディ・ウルド・タハ氏が推薦されている。

２ 経済・財務省が２９日に発表した声明によると、この立候補は、ガズワニ大統領の指示及び同大統領が掲げる国家の地域的・国際的な自立強化の方針に基づくものであり、モーリタニアの人材が国際的な金融機関・技術機関の意思決定機関に進出することを支援する狙いがある。

3 モーリタニアは、大統領の直接の監督と指導のもと、積極的な外交活動を展開し、この選挙戦において自国の候補者の当選を確実にするため尽力している。これには、アフリカ大陸内のすべての国々及び大陸外のA f D Bグループ加盟国との良好な関係を活用することが含まれる。

4 本選挙戦におけるモーリタニアの候補者の選挙戦略は強固で説得力のあるものであり、2025年5月27日から29日に開催されるA f D Bグループの年次総会及び理事会において、必要な支持を得ることが期待されている。

【経済】

●モーリタニア・モロッコ電力及び再生可能エネルギー分野でのパートナーシップ強化のための覚書

(1月23日付、当地政府系メディアAMI)

1 23日、カレド(Mr. Mohamed Ould Mohamed Malainine Ould KHALED) モーリタニア・エネルギー・石油大臣エネルギー石油大臣とベンアリ(Ms. Leila Benali) モロッコ・エネルギー移行・持続可能な発展大臣は、ラバト市において、電力及び再生可能エネルギー分野でのモーリタニア・モロッコ間のパートナーシップ強化のための覚書に署名した。

2 この協定は、電力及び再生可能エネルギー分野における両国の協力を加速させる重要な一歩となる。内容には、村落への電力供給プロジェクトの実施、クリーンエネルギー推進イニシアチブの強化、両国間の電力規格の統一を目指す取組みが含まれている。

3 また、協力内容には、電力網管理や電気安全分野における知識、技術、ベストプラクティスの共有が盛り込まれ、さらに共同研修プログラムを通じた人材育成も推進される。

4 この覚書は、エネルギーの安全保障の確保、エネルギー源の多様化、そして電力網の安定性を強化し、電力供給の改善を図る電力連系プロジェクトの実現可能性を検討することも目的としている。

5 会談では、モロッコ・ナイジェリアを結ぶガスパイプライン計画、グリーン水素といった新しいエネルギー分野のプロジェクトなど、大規模な戦略的プロジェクトについても議論された。

6 双方は、両国の関係が持続可能な発展を中心とする共通のビジョンに基づいており、アフリカ大陸が成長と繁栄のための大きな可能性を秘めた地域としての地位を強化するという共通の意志を反映していることを確認した。

7 カレド大臣による今回のモロッコ訪問は、両国間の継続的な協議及び調整を強化し、両国の二国間関係を発展させ、両国の抱く希望を実現することを目的としている。今次訪問は、ガズワニ大統領及びモハメッド6世モロッコ国王の指示のもと実現した。

●G T A ガス田生産及び輸出開始予定の発表

(1月25日付、当地独立系メディア Sahara Media)

1 モーリタニア政府は、G T A プロジェクトの第一段階から液化天然ガス(L N G)の生産と輸出を2月から開始し、「経済発展」の新たな段階へのカウントダウンを開始すると発表した。

2 ジャイ首相は、24日の国民議会において政府の作業計画を発表した際、このプロジェクトは天然ガスを利用し電力を生産し、地域のニーズを満たし、また余剰分を輸出することを目的としていると述べ、電力公社(S O M E L E C)及び産業・鉱業公社(S N I M)との供給契約は本年中に締結される予定であると付け加えた。

3 2024年末に、モーリタニアとセネガルの間にある大規模なG T A ガス田から最初の抽出が発表され、数年前に始まったガスの夢が具体化し始めた。

4 またジャイ首相は、政府が、Bir Allah ガス田及び関心のある企業と締結した協定の活性化に焦点を当てつつ、石油・ガス資源の商業化に向けた取組みを継続することを示した。

【経済協力】

- 1月28日、内田大使は、令和5年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「アエレンバー市アエレンバー村給水塔整備計画」及び同「アエレンバー市アエレゴレール小学校整備計画」の引渡式を執り行った。

